

校園名：秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

所在地：〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75

電話番号：018-862-8583

記載日：平成27年5月18日

記載者：田口睦子

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色

- ・小規模校ならではの縦割り活動や異学年交流により仲間同士、先輩・後輩の学び合いが豊かである。
中学部・高等部生による竿燈は昭和60年より秋田市竿燈まつりに毎年出場（32回目）し、県外からの観光客等と交流している。
- ・附属学校園が同一敷地内にあることを生かした交流及び共同学習や大学・附属学校園を活用した作業学習（現場実習）、大学と連携したセンター的機能が充実している。
- ・秋田市の市街地にあり、公共の交通機関を利用した学習機会が豊富である。



秋田市竿燈まつりでの竿燈披露

貴校の卒業生の活躍状況

- ・卒業生の情報は学校の進路指導部が把握している。年1回の夏の同窓会及び学校行事（運動会や文化祭など）への呼び掛けのほか、進路指導主事及び元担任による追指導も行っている。
- ・卒業生の中には知的障がい者サッカーの国際大会に日本代表として過去3回出場し、現在はサッカークラブの専属コーチとして働いている方や、大学の事務や図書館、学校の技能系補佐員として働いている方がおり、生徒にとって社会人としてのよきモデルとなっている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況

- ・県立学校との交流人事であるため、把握できる状況にある。本校勤務経験者の会があり、異動後の動向については学校（事務局）が情報をもっている。
- ・本校転出後に県教育委員会や総合教育センターの指導主事、県立校の管理職や研究主任等として、様々な部署でリーダーシップをとっている者を輩出している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組み

1 生徒がつくる「私の応援計画」(個別の支援計画)の活用

☆障がいのある生徒が自分の将来への夢や願いを意識して、積極的に日々の生活を送ることができるように、保護者や担任と「私の応援計画」(個別の支援計画)をつくり、年3回の面談を通して評価・見直しをしている。学校で目標を意識して生活するだけでなく、その目標達成のために他の人に支援してほしいこと等(合理的配慮)も記入して、余暇活動の場や就職先の方々への情報提供もできるようにしている。積極的な社会参加のために本人が活用できる計画である。

授業「私の応援計画をつくろう」より

三者面談を通し、本人が主体的に関わって作成

担任は生徒の願いを反映させて個別の指導計画を作成

2 附属学校の児童や地域の方との交流を取り入れ、人や社会とつながる力を高める年間を通した生活単元学習

☆学級の仲間と学ぶ・先輩から学ぶ・地域から学ぶなど段階的に多様な関わりを体験。
 ☆ 他者との関わりを基礎「見る・聞く・話す力」の育成、仲間の良さを認め合い、達成感を高める評価活動の工夫

小学部3・4年 単元「うどんのわかば」より



仲間と協力してうどん作り



陶芸班の先輩と箸置き作り



附属小学校同学年とのうどん交流

3 大学や附属学校園と連携した職業教育

☆実際の職場のように外部の人と関わりながら働く力を高めるために、高等部の作業学習（毎週火曜日・木曜日）ではサービス班を作り、大学や附属学校園から依頼を受けた清掃と大学構内でのカフェや作業製品販売ショップの開店を学習活動としている。清掃業者やカフェの従業員を外部講師に招いた技術向上の学習とともに、働く先輩へのあこがれを抱けるように大学で働く卒業生を指導者として働く現場での実習も実施している。

☆卒業後は大学の事務や図書館で非常勤職員（期限付き）として働きながら、社会人としてのマナーや就職に必要な力（コミュニケーションスキル等）を育成できるシステムがある。

4 本校教員の授業改善・授業力向上のしくみ

授業改善・授業力向上

～他学部からの評価～
全校授業改善縦割り検討会
～授業づくりアドバイザーからの助言～

～授業者としての振り返り～
＜授業改善シートとワークショップ＞

- ・単元構成や学習内容の検討
- ・授業における教材・教具の工夫や教師の支援をシートでチェック

～児童生徒の変容を通じた評価～
＜エピソード記録・カンファレンス＞
・「人との関わり」における児童生徒の内面を推測・記録し、変容の要因を探る。

地域において、現在、貴校はどのような存在か

大学等と連携しセンター的機能を発揮する学校

○発達の気がかりな幼児及び保護者への相談支援

相談ルーム「めばえ」（週1回程度）

保護者等学習会「わかはと教室」（年5回）

○幼稚園・保育所への巡回相談及び研修への講師派遣

○附属学校園における校内支援体制充実への支援

特別支援教育コーディネーター会議の開催等

○障がい幼児の学校体験と保護者相談（本校児童とのリズム遊びを体験）



現職教員が授業づくりについて研鑽を深める学校

○豊かな同僚性のもと、チームでの授業づくりと公開研究会・オープン研修会で発信

県の教育課題に対し秋田県教育委員会や大学と研究し、成果を発信する学校

○公開研究会とオープン研修会、研究紀要やホームページによる研究成果の発信
授業参観・ポスター発表・講演等多様な研修の工夫

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

インクルーシブ教育時代における特別支援学校のモデル校としての存在意義を高めるべく「ビジョン 2015」を作成し実践している。以下の記述はこのビジョンに基づいている。

(1) 公教育の実施校

本校は校内における子ども同士の学び合いを大切にし、指導方法を蓄積してきた。インクルーシブ教育構築の時代にあたり、その学び合いを基本にしながら、学校や地域の人々との交流及び共同学習を実践している。さらに附属学校園と同一敷地内であることを生かし、小学校教諭と共に行う障害理解教育を実践し、共生社会の形成に貢献しようとしている。センター的機能を十分に果たすためにも、授業研究と同僚性を充実することにより教師の専門性の一層の向上を図っている。

(2) 国の拠点校

秋田大学教育文化学部教員養成において、質の高い教育実習を提供するべく、実習生のモデルとなるような授業提示、そして適切な実習生指導ができる教師の育成をしている。また、今年度から秋田大学教職大学院生の実習校としても位置づけられている。

大学との共同研究・日常的な研究交流・研究的なプロジェクト、教師が経験的に獲得する実践知を豊かにしていく研究活動を実践している。

(3) 地域のモデル校

公開研究協議会・オープン研修会で多様な実践的モデルを提示している。

また本校での勤務は、県立学校の教師の資質・能力向上の機会として位置づけられている。秋田県教育委員会と一層連携して、秋田県教育委員会指導主事・教育専門監とともに、県の教育課題に対応した実践研究を実施していく。

